
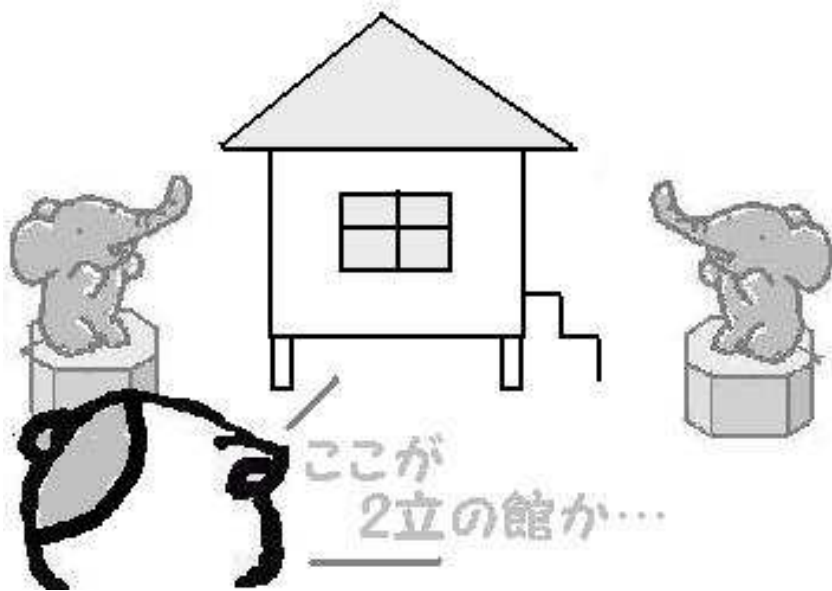


ディベートクラブ
たま。 presents 

「たま。」的 2立形式ディベート入門!



1、2立形式のディベートって？

ここでは、2立形式の競技ディベートの導入にあたって、2立形式のディベートとは何か説明します。

1、2立形式のディベートを行っているのは？

2立形式の日本語競技ディベートは、主に**大学生**や**社会人**向けのディベート大会等で行われています。

- ◆ **日本ディベート協会(JDA)**主催各種大会
- ◆ **全日本ディベート連盟(CoDA)**主催各種大会 等



2、2立形式は1立形式とどう違うの？

スピーチの**パート**や**準備時間**が違います！！
また、「**ディベート甲子園**」とは**ルール**が多少異なります。



A.パートが増える！

<1立のフォーマット>
(ディベート甲子園等)

肯定立論
否定質疑
否定立論
肯定質疑

否定一反
肯定一反
否定2反
肯定2反

<2立のフォーマット>

肯定第一立論(1st Affirmative Construct)

否定質疑

否定第一立論(1st Negative Construct)

肯定質疑

肯定第二立論(2nd Affirmative Construct)

否定質疑

否定第二立論(2nd Negative Construct)

肯定質疑

否定一反(1st Negative Rebuttal)

肯定一反(1st Affirmative Rebuttal)

否定2反(2nd Negative Rebuttal)

肯定2反(2nd Affirmative Rebuttal)

増えた
部分

★要は、**立論(&質疑)**がもう一回ずつ増えたということです★

B.準備時間が変わる！

<1立のフォーマット>

(ディベート甲子園等)

各パートの前に1~2分
必ず準備時間がある。

<2立のフォーマット>

持ち時間が8分あり、

自分達のスピーチの前に、合計 8 分の中で、
好きなだけ消費して使う事ができます！！

C.ルールの違い。(立論の概念)¹

<1立のフォーマット>

(ディベート甲子園等)

例えば、ディベート甲子園のルールには次のようにあります。

『**第2条 各ステージの役割**

1. **肯定側立論は、論題を肯定するためのプランを示し、そのプランからどのようなメリットが発生するかを論証するものとします。否定側立論は、現状維持の立場をとるものとし、主に肯定側のプランからどのようなデメリットが発生するかを論証するものとします。』**

つまり、1立形式では、「立論＝メリット(デメリット)を論証するパート」という事がルールで規定されていたわけです。

<2立のフォーマット>

例えば、日本ディベート協会(JDA)大会のルールには次のようにあります。

『**第三条 (側)**

ディベートにおいて、二つのチームは、肯定側、否定側に分かれる。

② 肯定側は、**論題を肯定することをその役割とする。**

③ 否定側は、**論題の肯定を妨げることをその役割とする。**

④ **論題の肯定、およびそれを妨げる方法は、ディベーターの議論に委ねられる。』**

つまり、2立形式では、「論題の肯定」「論題の肯定を妨げること」を議論すれば、立論においてメリットやデメリットを提出しなくても良いという事になります。

¹ 全国教室ディベート連盟(NADE)ホームページより引用。
日本ディベート協会(JDA)ホームページより引用。

2、ディベートのルールのおさらい。

ここでは、1立制度、2立制度共に共通するルールについておさらいします。

1、「立論」「反駁」パートの役割²

はじめに、「立論」「反駁」パートの概念をおさらいします



立論パート

「立論」は、論題を肯定する(もしくは、否定、肯定を妨げる)ための
主要な論点(主要な根拠、新たな論点になる議論)を提出する前半のパート。

◆具体的には◆

[肯定側]…メリット(Merit, Advantage)など。

[否定側]…デメリット(Demerit, DisAdvantage), メリットへの反論(Case Attack)

対抗政策(Counter Plan), 論題充当性(Topicality)など。

◆補足◆

・1立におけるメリットへの反論に関しては、反論の機会が反駁パートでしかない為、
第一反駁で行われています。

・線部は、主に2立制度で認められている方法³。



反駁パート

前半の立論パートで提出された議論を分析、評価、比較などを行う、
議論を煮詰めていく後半のパート。

² この項目は安井省侍郎著『初心者のためのディベート Q&A [第3版]』NAFA 出版会 p.23 参照。

³ 対抗政策や論題充当性に関しては、別途、「たま。」ダウンロードコーナーで取り扱う予定です。

2、議論にまつわるルール

議論にはルール違反として以下のような議論は評価されない場合があります。



新しい議論 (New Argument)

「立論パート」で出すべき議論を「反駁パート」で出してしまうことです。

◆補足◆

- ・ 但し、立論パートで提出された論点への反論の最初の機会が、反駁パートの場合は反論は新しい議論にはなりません。
(例:1立におけるM,Dへの反論、2立における2NCへの1ARの反論)



遅すぎる議論 (Late Response)

相手に出された議論に対する反論は、その直後のパートで反論しなければいけません。それより遅いパートで反論した場合は、遅すぎる反論になります。

3、広がる戦略!!

ここでは、2立によって、どのように戦略が変わるか、話していきたいと思います。

1、ネガティブ・ブロックの注意点

2立フォーマットでは、否定側第二立論6分⇒否定側第一反駁4分と、合計10分も連続でスピーチをする機会があります。

これをネガティブ・ブロックと言います。その際の注意点が2点ほどあります。

1) 否定二立と否定一反では同じ話をしない事。

同じ事を話すと肯定一反でまとめて返せば良いので時間が勿体無いです。役割分担して違う話をしよう!

2) 否定一反の前には準備時間をとらない事。

その間に、肯定一反に、否定二立への反論を考える時間も与えてしまいます!



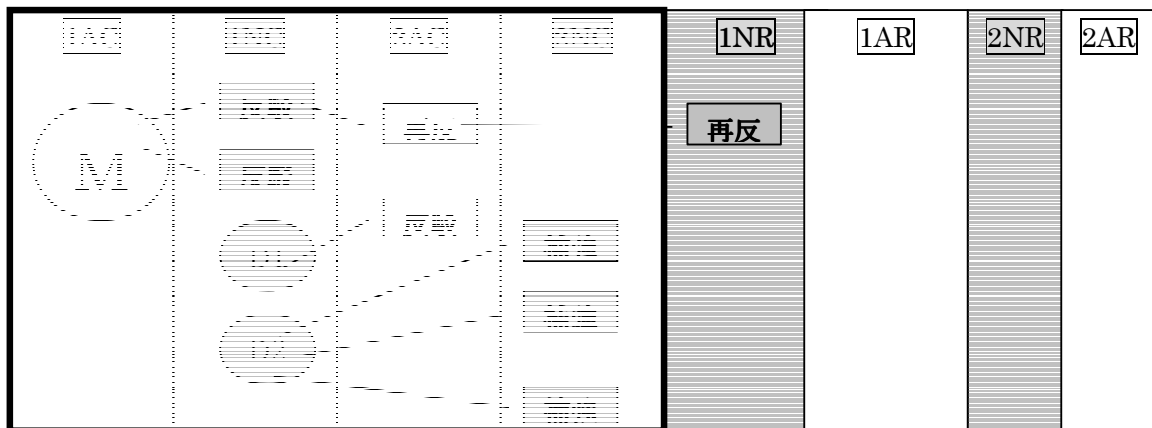
2、広がる否定側の戦略。

2立制だと、2回ある立論のうち どちらかで主要な論点を出せばいいことになります。
 (肯定側は、最初の立論では、メリットを読む以外やることがないので、例外です。)

その結果、以下のような戦略が生まれます。



1立の段階で、デメリットなどの**主要な論点の立証を必要最小限にして、たくさん出したり、ばんばん反駁したりして**、相手に負担をかけておいて、2立で、相手の返しの弱かった論点を補強して、相手の負担を大きくさせる戦略です。



ここで気をつけるべき点は、1NR と2NC で同じ話をしないこと。同じ話をする、相手はまとめて返せばいいので、時間ももったいないです。

<各パートの主な役割>

1AC メリットを出す

2AC 1NC を全て返す

1AR 2NC・1NR の返し

2AR まとめ・比較

1NC デメリット&ケースアタックを出す

2NC デメリットの守り&補強

1NR ケースアタックのまとめ・再構築

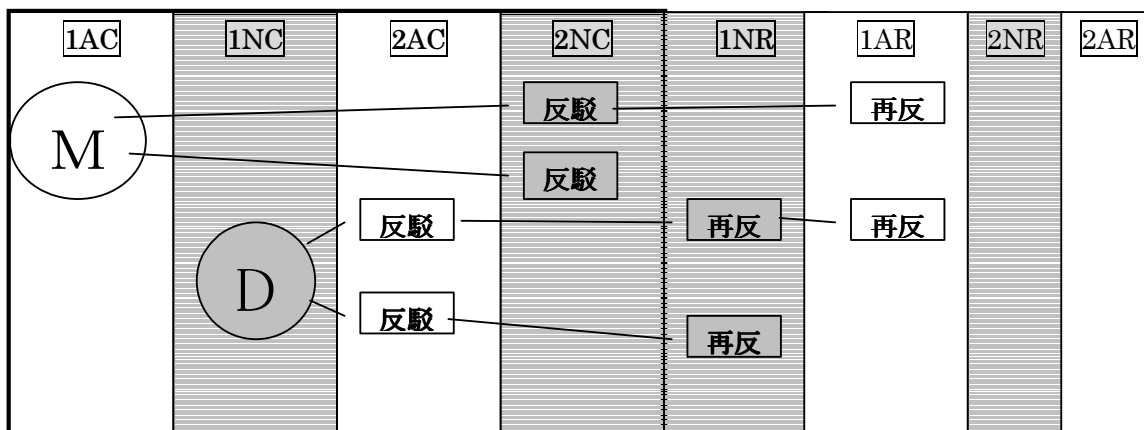
2NR まとめ・比較

エモリースイッチ

1立で**6分間**、例えばデメリットやCPなどの**主要な論点**の話をして、
2立でメリットにアタックしまくり、1NRでデメリットやCPを守る戦略です。

強いデメリットやCPが作れるときは、この戦略が良いようです。

ちなみに、エモリースイッチという名前は、アメリカのエモリー大学がよくこの戦略を用いていたことに起因します。



<各パートの主な役割>

1AC メリットを出す

2AC デメリットへのアタック

1AR 2NC・1NRの返し

2AR まとめ・比較

1NC デメリットを出す

2NC ケースアタックを出す

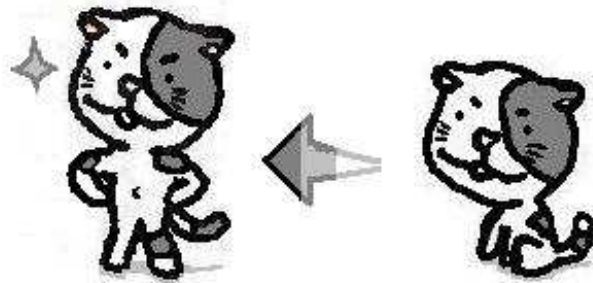
1NR デメリットの守り・再構築

2NR まとめ・比較

3、まとめ。

2立では戦略が広がりますが、**基本的には、メリット・デメリットの比較**で決着をつけることが多いので、1立でやっていた**基本的なこと(反駁・比較など)**がやはり重要です。

2立ディベーターへの進化★三



ディベート
クラブ
たま。

東京都 国分寺市 を中心に、「多摩地域」の社会人、学生を中心に
毎月1回 第2土曜を 基本に 活動中！！

ディベートクラブ「たま。」ブログ

http://blog.livedoor.jp/kunitachi_debate/



©Kenji Takeda 2009, All rights reserved